

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25300056

研究課題名(和文) 経済自由化後の南インド社会の構造変動に関する総合的研究

研究課題名(英文) Structural Social Change in South India in an Era of Economic Reform.

研究代表者

杉本 良男 (Sugimoto, Yoshio)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：60148294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：期間中、分担者、協力者の現地調査は、のべ20回以上、調査地も、メインとなる南インド、タミルナドゥ州内だけでなく、マハーラーシュトラ州、ケーララ州、デリーなどのインド国内、および、グローバル・ネットワークにつき、フランス、韓国、タイ、シンガポール、ドバイなどで実施した。また、6本の雑誌論文、21回の学会発表、12件の図書などを公表した。その結果、南インド社会の構造変動について、村落、地方都市、大都市、海外までも結ぶネットワークの中で進行していることが実証的に明らかになった。とくに当初の社会経済的变化、カースト社会構造の変化、に加えて宗教空間をめぐる変化が大きかったことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Scholars of the Socio-Cultural Anthropology and its related fields of study conducted field research a total of more than 20 times in various areas of India, and Indian societies in France, South Korea, Thailand, Singapore, Dubai etc., and published 6 articles, 12 books, and read 21 papers in various academic conferences. The accumulation of ethnographical studies of villages, towns, and Mega Cities like Chennai, which had been rarely conducted is itself a remarkable contribution for the development of the study of structural Socio-Cultural changes of this area. Through these studies, along with 1) the socio-economic changes and 2) changes of caste structure according to our original hypothesis, 3) the religious landscape has totally changed in these a couple of decades.

研究分野：文化人類学

キーワード：経済自由化 インド 社会変動

1. 研究開始当初の背景

インドは1990年代から経済自由化政策がとられ、とくに2000年代に入って急速な経済成長が進んでいた。それに伴う社会経済的、宗教文化的变化については、マクロな視点からの研究は行われているものの、詳細な現地調査に基づく実証的な研究は内外を通じてほとんど見受けられない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究は、1991年の経済自由化を契機に大きく変容をとげてきた現代インド社会の構造変動について、とくに南インド、タミルナドゥ州および周辺諸地域を対象に、人類学者4名を中心として経済史学者、地理学者などを含めた研究グループを構成して、共同で現地調査、資料収集、文献研究を実施し、総合的・全体関連的な視座にたつて研究しようとするものである。とくに、北インドと比較して圧倒的にカースト制を基盤とする農村社会の比重が高かった南インドにおいても、近年メガシティと海外を結ぶグローバル化の進行をうけて、1) 地方都市と農村を包摂する「地域社会(ナドゥ)・ネットワーク」を基本単位とする伝統的な社会構造の空洞化が進む一方(社会経済的基盤の崩壊) 2) カースト制がむしろ都市的・国家的な政治的・イデオロギー的基盤へと変化している(社会政治的意義の拡大) 現状について実証的に明らかにすることを目的としている。これにより、農村-地方都市-メガシティからグローバル・ネットワークまで巻き込む全般的な構造変動の実態解明に資することが最終的な目的である。

3. 研究の方法

研究プロジェクトは、2013年度から15年度にかけて3年間にわたって実施された。この間、現地調査は、核となる南インド、タミルナドゥ州タンジャーウル県クンバコーナム市およびティルップランビヤム村で、杉本良男、サガヤラージ、杉本星子がそれぞれ各年度1回ないし2回実施した。また、協力者の松尾瑞穂、竹村嘉晃が各1回と、インド側の協力者スッバイヤー教授、およびクンバコーナム・アーツ・カレッジ地理学科の教員、学生も加わった。また、関根はインド、チェンナイ市およびマレーシアにおいて現地調査を実施した。また、協力者の松尾は、マハーラーシュトラ州トランバケーシュワラにおけるコミュニティ・サーベイを行い、竹村は、ケーララ州北部及びデリー、ムンバイ、およびドゥバイ、シンガポールにおける宗教・芸能実践についての調査を行った。15年度は補充調査と調査資料のとりまとめを行った。また、研究会を2度開催し、そのつど全体の方向性について協議して、基本的な認識を共有するよう努めた。

4. 研究成果

研究は、当初の予定以上に進捗した。当初の目的の、「1) 地方都市と農村を包摂する「地域社会(ナドゥ)・ネットワーク」を基本単位とする伝統的な社会構造の空洞化が進む(社会経済的基盤の崩壊)」については、30代以下の教育水準が飛躍的に向上し、高等教育を州内の大都市とりわけチェンナイで受けてそのまま就職する子弟が多くなっており、すでに伝統的な、壺作り職、鍛冶職、金銀細工職、木工職などの専門職は後継者がなく、村落内でのサービス交換のシステムが崩壊している現状が実証的に明らかになった。これは、不可触民においても同断で、低学歴の親の世代と高学歴のこの世代の世代間格差が拡大し、農村社会も二極化が激しい現状にあることが明らかになった。

「2) カースト制がむしろ都市的・国家的な政治的・イデオロギー的基盤へと変化している(社会政治的意義の拡大)」については、村落、地方都市におけるカーストのプレゼンスに弱体化する一方、大都市部や海外在住者のネットワークを通じて、カースト団体が政治的圧力団体の機能を持ちまた、経済ネットワークの役割を果たしている例がみられた。特に、都市における不可触民ダリットについて、1980年代の後半からヒンドゥー・ナショナリズムがローカリズムを利用しながら、すなわちカーストと宗教を利用しながらインド全州に拡大し、元不可触民も、さらに移民社会も巻き込まれてきたが、その中で、まだ兆候的ではあるが、2010年代に至って、旧来の留保政策や贈与型政治の機能不全とグローバル化を前提にしたダリットの下からのカーストと宗教の利用・流用による主体性の確立への模索・交渉が確かに始まっている現状が明らかになった。さらに、村落内のカーストの一部が、企業的な木工工場や煉瓦工場などを営む例が見られる他、芸能カーストが近隣、親族ネットワークを利用して、ドゥバイ、シンガポールなどのインド人社会の中で活動している現状も明らかになった。

さらに調査研究の進展とともに、村落社会における宗教空間の構造変動について、新たな知見が得られた。調査村にはシヴァ寺院があり、かつては村落の中心にある統合の中心であったが、特定の僧団の支配下に入って長年月を経て、中心としての機能を果たせなくなった。他に地方神などを祀る寺院が大小あるが、いくつかの寺院が2000年代に個人の篤志家を中心に次々と再建されていた。一部村の特定地区の人びとが共同で再建に当たっている例もあるが、多くは個人の力に頼っているのが現状である。村落が社会としての共同性を失っていく中で、外部者の思惑によって観光化される場合もあり、いずれも村落社会統合のシンボルになり得ていないのが現状である。こうした村落における寺院が公共的宗教空間としての意義を失っているのが現状である。これを、インドの他の寺院などとの比較に持ち込めば、インドにおける宗教

施設の現代的意義について新たな理論構築が可能であることを示唆している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

1. Antonysamy Sagayaraj, "Microfinance and Gender: the Magalir Thittam in Tamil Nadu." in Crispin Bates, Akio Tanobe, and Minoru Mio (eds.) Human and International Security in India. London and New York: Routledge, 2016, pp.128-145. 査読有

2. 杉本良男「ネオ・ヒンドゥイズムの系譜学—南アジア宗教ナショナリズムの病い」三尾稔・山根聡(編)『英領インドにおける諸宗教運動の再編—コロニアリズムと近代化の諸相』(NIHU Research Series of South Asia and Islam vol.7), pp. 1-40. 2015 査読有

3. 杉本良男「奇蹟譚のポリティカル・エコノミー—南インド、ウェーラーンガンニ聖堂のメディア戦略」杉本良男(編)『キリスト教文明とナショナリズム—人類学的比較研究』, pp.153-184, 2014, 査読有。

4. 松尾瑞穂「インドにおける生殖ツーリズムと代理懐胎—ローカル社会との関わりを中心に」日比野由利編『グローバル化時代における生殖技術と家族形成』, 33-52 頁、日本評論社、2014。査読無

[学会発表](計 21 件)

1. Matsuo, Mizuho "At lease we 've done a Good thing": Commercialisation of funeral rites in Contemporary India" (ICAS9), Adelaide, Australia, 8 July 2015.

2. S.Subbiah, Yoshio Sugimoto, A.Sagayaraj & Seiko Sugimoto, 'Dynamics of Religious Spaces and Multiplicity of Factors: A Case Study of Thiruppurambiyam in Tamil Nadu, India.' Thematic Session: Religion and Changes of Socio-economic and Cultural Space of Cities and Regions 1, IGU (International Geographical Union) Regional Conference "Changes, Challenges, Responsibility". 19 August 2014, Jagiellonian University, Krakow, Poland.

3. Antonysamy Sagayaraj, "An Anthropological Analysis of Media Culture and Identity Politics in Contemporary India and Japan" 公開講演会、マドラス大学メディア・ジャーナリズム研究科、19

march 2014, Chennai, India.

[図書](計 12 件)

1. 三尾稔・杉本良男(編)『現代インド6 環流する文化と宗教』東京大学出版会、2015年5月、348+12頁 [竹村嘉晃「踊る現代インド—グローバル化のなかで躍動するインドの舞踊文化」, pp.159-179、杉本星子「インドのモードファッションと『手仕事』のナショナリズム」, pp.189-213、杉本良男「『インド』をめぐる知の変容」, pp.219-241、サガヤラージ・アントニサーミ「キリスト教改宗問題とナショナリズム」, pp.305-326]

2. 柳澤 悠『現代インド経済—発展の淵源—軌跡—展望』名古屋大学出版会、2014年2月、全422頁。

3. 松尾瑞穂『インドにおける代理出産の文化論—出産の商品化のゆくえ』、風響社、ブックレットアジアを学ぼう29、2013年10月、全56頁。

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉本 良男 (Sugimoto, Yoshio)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号: 60148294

(2) 研究分担者

A サガヤラージ (A Sagayaraj)
南山大学・人文学部・准教授
研究者番号: 10434606

関根 康正 (Sekine, Yasumasa)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号: 40108197

杉本 星子 (Sugimoto, Seiko)
京都文教大学・総合社会学部・教授
研究者番号: 70298743

(3)連携研究者

柳澤 悠 (Yanagisawa, Haruka)
東京大学・名誉教授
研究者番号: 20046121

松尾 瑞穂 (Matsuo, Mizuho)
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・
准教授
研究者番号: 80583608